

届け 世界の果てまでも

令和2年 7月7日
No. 18
文責 校長 飯久保一男

子どもの自立のために 失敗を見守りましょう

子どもが忘れ物をするのはなぜでしょう。宿題を忘れてたり、リコーダーを忘れてたり、健康チェックカードを忘れてたり、「まったく…」と親のため息が聞こえてきそうです。前々号の「困る経験」や前号の「たまには痛い目にあわせましょう」につながりますが、**子ども自身が忘れ物をして損をした**ということを体験として感じていないことが原因の一つです。忘れ物をしてもお母さんが届けてくれる、友達が貸してくれる、このように、人に頼った生活が日常化してしまうと、いくら注意しても何度も繰り返します。



子どもが忘れ物をしていても見て見ぬふりをすることは、忘れ物をなくす一つの方法です。忘れ物を繰り返す中で、自分で「**忘れ物をする**と**自分が損をする**」と意識できる子どもは忘れ物を減らすことができます。忘れ物をしたときの子どもの言い訳の中に「だってお母さんが…」と親のせいにする言葉が出てくることがあります。これは、親への依存であり、甘えです。「甘やかされている」のです。また逆に、親は子どもに失敗させたくないという思いから、忘れ物をさせないよう、注意したり、点検したりして「甘やかして」しまいがちです。「**自分のことは自分ですること**」は自立への第一歩です。

注意 忘れ物を見て見ぬふりをするのは一つの方法ですが、**逆効果の場合もあります**。「忘れ物は自分が損をする」と意識できる子どもの場合に効果があります。

12時	15時	18時	21時
雨	雨	雨	雨
24	25	21	19
60	53	74	81
0	2	3	5
南 2	南 3	南南西 2	南 1

例えば、子どもに「今日は雨が降りそうだから傘をもっていきなさい。」と言って傘をもたせることは、子どもの自立につながるでしょうか。

これでは、自立につながりません。親が判断して、親の言うとおりにしている生活を積み重ねてしまうと、子どもは自分で判断しないで、親に頼ってしまいます。傘をもっていかずに雨が降ってきて濡れてしまったとき、「お母さんが傘をもっていくように言ってくれなかったからだ！」などと親のせいにする子どもになってしまいます。

自立のためには「**自分の行動に責任をもつこと**」が大切です。ものごとを人のせいにしないことです。傘をもっていかどうかの判断を子どもに任せ、結果として傘をもっていかず、傘がなくて「困る経験」や雨に濡れて「困る経験」も必要です。次の曇り空のときには自分で判断して傘をもっていかかもしれません。こういう経験を積み重ねることで、「**自分で判断して行動できる子ども**」に育っていくと思います。自ら下した判断を人のせいにはできないからです。

親の大きな役割は、子どもの自立への支援です。そのためにはなるべく「自分で判断」させ、それが失敗につながってしまったり、損につながる経験をしてしまったりしたとしても、見守ってほしいと思います。そして、その積み重ねがやがて「自立」につながるということを理解していただき、子どもの年齢にあった自立を支援してほしいと思います。

(参考)「子どもには、どんどん失敗させなさい」(水野達朗:著)

一部+α教職員に好評のため、またしても父と子どものコラムの紹介です。

息子に少し追い越された日

見る見るうちに皿が重なっていく。

なあ、もう少しゆっくり食べたらどうだい。

今、息子（中2）と駅前の回転寿司に来ているのだ。



妻が外出、今日は男2人で夕食となった。

たまには奮発して寿司でもとるかという私の提案に、息子は、

「うーん、回転寿司がいいな。」

なかなか親思いの子どもだと感心したのが甘かったか。

食べ盛りというのはこういうものかと改めて驚かされた。

流れてくる皿を次々とっては見事に平らげる。時折、

「コハダとイワシも下さい。」

などと生意気なことまで口にする。そのくせ、

「あのさ、ウニもあっていい？」

などと聞くところが泣かせるじゃないか。

そういえば、前に息子とこの店に来たのはいつだったろう。

ついこの前のような気もするが、

確か2、3皿食べてすぐにプリンだゼリーだと欲しがったのをたしなめた記憶があるから、それもずいぶん前だったのだろう。早いもんだな…。

帰り道、やけに隣の影が長く見えて横を向くと、

その影の持ち主の肩が自分よりほんの少し高くあることに気づいた。

なんとなくシャクな気がして（しかし同時に「悪くないな」という微妙な感じもあったのだが）

私はいくらか早足で少し先を歩いた。

家が近づいてくると、背後からヤツがこう言った。

「ねえ、あとでちょっと腹減りそうだから、そこのコンビニでおにぎりでも買おうよ。」

花王「暮らし百景」より

私の身長は173cm、妻は160cm弱、長男が175cm、次男は185cmもあります。
いつの間にか息子どもに追い越され、家族でピリ2の背の大きさになりました。
正月に息子2人が帰省するとコタツの中が長い脚でいっぱいになります。



息子たちが中・高生のころ、家族4人で回転寿司に行くと、1万円を超える出費でした。
育ち盛りの男の食欲は、あきれられるほど（店の人に褒められるほど）のものです。
妻曰く「あなたの飲んだビールが一番高いんだけどね！」 いやはや…。

